

めぐりっと紫波

発行者 NPO法人紫波みらい研究所

TEL 019-671-2244 FAX 019-671-2243

E mail miraiken@shiwa-mirai.com

紫波のまち 紫波のひと

紫波町農村青年クラブ

紫波町に農村青年クラブ(会長 富山知倫)という団体があります。会員15人、年齢は20代から30代、すべて男性。どんな活動をしているのか興味がわく。

設立は、昭和38年、全国の市町村にある団体。前身は、紫波町農村青年クラブ連絡協議会といい、旧町村ごとに運営されていた。

構成メンバーは農業の後継者となる若者が多く、高齢者のメンバーはと聞くと、暗黙の了解で年祝い(42歳)をもって、めでたく卒業。とはいっても、農業に対する知識や技術、会運営のノウハウを伝承するため、いつも影から応援してくれる存在だ。4Hクラブ要領の中でかかげている信条がすばらしい。

- 私達は、農業の改良と生活の改善に役立つ腕を磨きます。
- 私達は、科学的に物事を考えることのできる頭を訓練します。
- 私達は、誠実で友情に富む心を培います。
- 私達は、楽しく暮し元気に働くための健康を増進します。

手(HAND)、頭(HEAD)、心(HEART)、健康(HEALTH)の頭文字をとって、4Hクラブとも呼ばれている。

活動内容は、月1回を目標に例会を開催し、農業経営について熱く語ったり、パソコン簿記研修を受けたりと充実した中身だ。中でも毎年の恒例事業で、作物の植え付けから収穫、加工までと1年間かけて取り組んでいる「親子農業体験教室」には、力を入れている。

参加者は非農家の親子で、野菜作りをしたいが、作るのには自信がないという。今では、リピーターが多く、今度は何を栽培するのか早く教えてほしいという問い合わせがあり、うれしい悲鳴をあげているという。昨年は、大豆を植え、大豆の収穫、豆腐の加工という体験も行った。

富山会長は「スーパーに行けば野菜があり、いつでもお金さえ出せば手に入れることができる。しかし、自分の手で育てるとリスク(虫などの被害)があり、収穫できない時がある。この農業体験をとおして、どれだけ手をかけ、大切に育てないと自分たちの口に入らないということわかってほしい」という。また、「将来、農業後継者や農業関係の仕事に就く人や農業って大切だと思える人が増えてくれればうれしい。準備の苦労は、参加した親子の笑顔で吹っ飛ば」と話してくれた。

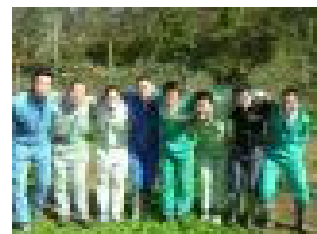
そんなすてきな方たちにも独身が多いと聞き、驚いた。活動も大事だが、花嫁を募集し、次の世代の後継者を作ることももっと大事だと思ってインタビューを終えた。みなさん!「花嫁募集中!」です。よろしく!



親子農業体験教室



親子で仲良く!



会員の団結力!

若者が紫波町にやってきた！

「めぐりっと紫波第3号」で、平成16年から國學院大学生やその関係者が、紫波町で森林の間伐作業をするために毎年ボランティアでやってくることを記事にしましたが、覚えていますか？

その後のうれしいニュースをお知らせします。その中の3人、うち2人は有機農業、もう1人が林業家を目指し、紫波町民になりました。偶然にも3人は、千葉県出身です。3人を紹介します。

子どもたちのための農業を目指す関君(24歳)

彼は、教師を目指していたが、4年で大学を中退。色々な葛藤があったのだろう。有機農業をやっている千葉の農家に住み込みで研修に行く。この時、将来の夢を有機農家としている。間伐終了後に編集された文集の中で、彼は「間伐をとおして出会った友人たちと交流することで、僕の何かが変わったのだろう」と書いている。そして「紫波町に行き、友人たちと出会ったことで、大きく成長できた。百年後の子どもたちのためにという紫波町の目標に僕も一緒に進んでいきたい。いつかこの町で友人を迎えたい。大切なひとと素敵な農園で」と書いている。その想いをかなえる日は、そう遠くないだろう。



田植えの手伝いをする関君

理想の農業を紫波町で目指す石田さん(25歳)

農業への思いは、高校を決める時からで、将来、自然に関わる仕事に就きたいと農業高校を選んだ。大学へ進み、就職を選ぶ時、色々悩むが、やっぱり農業だと、有機・無農薬で野菜を作っている農家に農業インターンシップ研修を受けたという。

その後、基本を学ぶため、お姉さんに紹介された有機農家に住み込んで研修。そこで、彼女を紫波町へと導いた運命の出会いがあるのだ。

文集に「理想の農業を紫波町でやりたい。どんな農業かという、両親を始め、大切な人が、元気でいられる農業」と綴っている。人との関わりを大切にする彼女ならではのすてき言葉だ。



小豆を煮る作業をする石田さん

林業家を目指す山口君(25歳)

彼は、平成16年から毎年ボランティアに参加している。平成18年の冬に、間伐体験から生まれた國學院大学「森木会」の初代会長でもある。紫波町への想いは、仲間の誰にも引けを取らず、「平成の森植樹」や「紫波100年フォーラム」など、これまでに8回以上来町している。「近代岩手・紫波地域の学校林について」という卒業論文にも取り組んだ。

3月に東京都内で行われた林業の就職ガイダンスを受け、トントン拍子に話が決まった。

休日には、愛車のバイクで西から東の産直をめぐり、食糧を調達し、地産地消を実践している。

もうりっぱな紫波町民だ！



チェーンソーを持つ山口君



各団体からのお知らせ

平泉関連史跡連携協からののお知らせ

“ふるさとの歴史を知ろうツアー”に参加してみませんか！

*半日ツアー-2,000円 *1日ツアー-3,800円

- 6月 6日(土) 9時~12時 13時~16時 樋爪館セミナーツアー
- 6月21日(日) 8時~17時 栗駒・平泉ツアー 義経伝説と平泉盛衰
- 7月 5日(日) 9時~16時 陣ヶ岡・月の輪形・樋爪館 徹底案内
- 7月18日(土) 9時~16時町内関連史跡の花めぐりツアー(昨年大好評)
- 7月25日(土) 8時~17時 当こく33観音参り2回目(前はバス2台)
- 7月26日(日) 9時~12時 13時~16時 花めぐり半日コース

8月はお盆の帰省客を案内する ふるさとロマンツアーへどうぞ

8月9日(日)8月15日(土)です。

お問い合わせ・申し込みは、紫波中央駅前観光案内所まで

Tel 671-2245 Fax 671-2243

紫波特産

もちもち牛コロケ

販売中！

懐かしのお肉屋さんの名物

お持ち帰りOK!

1個 120円

3個以上で1個あたり

110円

5個以上で1個あたり

100円

お問合せ

ラ・フランス温泉館

電話 673-8555

川原井泰江童謡コンサートへのお誘い

日詰出身の童謡詩人異聖歌さんが書いた多くの作品から、聖歌さんの遠縁に当たるソプラノ歌手の川原井泰江さんが歌います。川原井さんは日本の女性史と子守唄について研究されており、若いお母さん方にぜひ子守唄を歌ってほしいと話されています。お誘いあわせておいでください。

とき 7月11日(土)午後1時30分

ところ 野村胡堂あらえびす記念館ホール

会費 1500円(当日1700円)

チケットは実行委員会 676-2669まで

町内チラシグループ、あらえびす記念館にもあります。

第7回かとうじ山の音楽会

6月13日(土)

テーマ ~イーハトーブの草原に~

日時 6月13日午後1時30分~

ところ 水分 ビューガーデン芝生広場

内容 賢治童話劇「鹿踊りのはじまり」

群読 賢治詩「原体剣舞連」

水分児童館による「宮手鹿踊り」

そのほか、ホーン演奏・コーラスなど

入場 無料

(雨天の場合はラ・フランス温泉館に変更)

さわやかな草原での手作り音楽会です。

お気軽にお越し下さい。

連絡先 事務局水分公民館 673-8222

または実行委員会 676-2669(内城)まで

あづまねエリア交流キャンペーン

東根山のふもと一帯で事業展開や文化活動を行っている事業所・団体が、地域活性化のため共同で交流キャンペーンを行っています。大自然のふところに抱かれた、安心・安全・健康・文化エリアへゆっくりおいでください。

年間事業も盛りだくさん、詳しい予定表は各事業所で差し上げています。

- * 健康温泉 ラ・フランス温泉館
- * ゆっくり温泉 ききょう荘
- * 平日も営業 あづまね産直
- * ブルーベリー摘み 紫波農園
- * 安心卵産直 たまご家
- * 緑の駅 ビューガーデン
- * 洋梨なら 上松本洋梨生産組合
- * 未来に残そう茅葺屋根 武田家住宅を守る会

事務局 あづまね産直 673-7364(定休日 毎週水曜日)



イベント情報 6月から7月まで

全国蔵元フェスティバル

6月12(金)・20日(土)

時間 18時30分開宴
 会場 ラ・フランス温泉館ホテル湯楽々
 会費 両日それぞれ5,000円
 定員 両日共に80人
 送迎 送迎バス有り
 申込み ラ・フランス温泉館
 TEL 673-8555

キャンプ・インストラクター養成講習会

6月13日(土)~14日(日)

場所 岩手県立県南青少年の家
 参加年齢 18歳以上で関心のある方
 参加費 7,000円(テキスト代別途)
 主催 岩手県キャンプ協会
 問合せ 紫波キャンプ協会
 TEL 672-3833

まちづくりコーディネーター養成講座

コミュニケーション技術・ファシリテーション技術

日時 6月13日(土)・14日(日)

時間 9時30分から16時30分

場所 JAいわて中央パーフルパレス

プロセスデザイン技術を学ぶ

日時 7月4日(土)・5日(日)

時間 9時30分から16時30分

場所 JAいわて中央パーフルパレス

フィールドワーク技術と計画づくり手法を学ぶ

日時 7月25日(土)・26日(日)

時間 9時30分から16時30分

場所 未定

運営 NPO法人 風・波デザイン

申込み 紫波町役場企画課協働支援室

TEL(直通) 672-6884

FAX 672-2311

行雲流水(7) - セールスマンになろう -

若い新住民が3名、この町で生活をスタートさせたという。さらに今後も予定者が、と。新しい住民が越して来る事自体は珍しくないが、このケースは普通とちょっと違う。学生時代、交流事業でこの町に来て、森林保護活動に携わった人達の中で、卒業後この町で暮らしたいと、それを実際に行動に移した人達だとか。それまで縁のなかつたこの町に、新しい若い感覚を持った人達が根付いてゆく、わくわくするよな話である。彼らはやがてパートナーを得て子どもも出来るかも知れない。そしてこの紫波を担う強力な戦力になるだろう。

その一からの出発を、私達は住民あげて応援したい。町長も「町としても出来得る限りサポート、応援をしたい」とおっしゃったそう。もともと岩手は、平泉を初め、朝廷のあつた「中央」に一步も引けを取らぬ文化と経済力を持っていた地。それなのに以後は残念ながらさまざまな面で遅れを取ってきた。だがやがて、また時代の要請がきくと岩手を表舞台に押し出すはず。何しろ「白雲の浮かぶ果てまでほろぼると」した大地。そのこの持つ魅力を、今こそ一人一人がセールスマンになり、外への宣伝に努めたい。(三)

【編集後記】

めぐりっと紫波は、皆さまのおかげで2年目を迎えることができました。

今後も読者の皆さんからのおもしろい情報や暮らしのエコアイデアなども募集しています。

また、誌面の感想や意見もお寄せください。

めぐりっと紫波 編集協力団体

紫波トークセッション さくら製作所

今回は、平成21年7月頃の発行予定です。